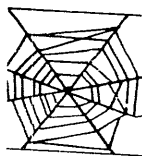


までいろいろな形で存在し、悪弊とされている年金の併給 (cumulo di pensione) の制限をしている。

このような年金制度の改革 (riforma di pensione) は、イタリアの年金制度の歴史の上においては、画期的なことである。ただし、前述の通り、医療保険の制度改正問題が国会において2年以上にわたり論議された経験もあり、年金制度の改革についても、どのような過程を経るか、注目したいところだ。

(参考資料) 拙稿 イタリアの年金制度 (「社会保険・実務と法令」誌 1978年10月号及び12月号), 表2, 表3, 表4に掲示の資料。Il Sole 24 ORE紙 (22, ottobre, 1978)。



社会保障こぼれ話

最近の失業

最近の失業では、失業率は依然としてやや高い水準を維持している。たとえば、失業率が7%を上まわるのは、カナダ、フィンランド、イタリア、スペインなどである。反対に、失業率が3%を下まわるのは、オーストリア、ノルウェー、スウェーデンなどで、日本もこのグループに属する。

失業率を男女別で見れば、一般に、女子の失業率は男子を上まわっており、イタリアなどは、女子の失業率は男子の2倍以上で、全体の失業率が約2%にすぎないノルウェーでも、男子の1.7%に対して、女子は3.2% (1978年第3・四半期) で、後者の失業率は高い。

失業者を年齢別にみれば、失業者が多い年齢層は、一般に25~54歳のグループで、15~19歳のグループがこれに続いており、中には、両者の立場が逆になっている少数の例も見うけられる。また、55歳以上の失業者は他の年齢グループに比較すれば、少なくなる例をよく見うける。それはともかく、多くの国で、25~54歳グループの失業が多いのは、カバーされた年齢の幅が他の年齢グループよりかなり広いので当然な形といえる。

ところで、日本の状況を他の各国と比較しながらみると、日本の失業率は約2%で比較的到低い方に属するが、男女別の失業率は、フィンランドやイギリスなどのように、女子の失業率が男子より低い方に属している。年齢別の失業者は25~54歳のグループが圧倒的に多く、このグループが失業者に占める比率は男子が59%、女子が67%になっている。この年齢グループのこのような比率は、きわめて高い例に属する。また、55歳以上の失業者が多く、とくに、男子の場合に、このグループの失業者が多いのは余り例を見ない。

(OECD, Labour force statistics - Quarterly).

(平石長久 社会保障研究所)